

The social welfare in OSAKA



大阪の 社会福祉

2022年10月

809



社会福祉
法人大

大阪市社会福祉協議会

<https://www.osaka-sishakyo.jp>



▲ゴーグルをつけて、認知症の人の視点をリアルに体験（長池連合会館）

※VR（バーチャルリアリティ）とは…専用のゴーグルで人間の視界を覆うように360°の映像を映すことで、実際にその空間にいるような感覚を得られる技術

阿倍野区

本人の視点に立って、 寄り添う気持ちを

阿倍野区社協では、「認知症になっても安心して暮らし続けるまちづくり」をめざして、認知症の人の気持ちへの理解を深

めるために、VR（バーチャルリアリティ）*技術を使った体験を実施しました。
（2面につづく）

阿倍野区



HB

♪知らない街を歩いてみたい…で始まる「遠くへ行きたい」

が突然頭をよぎって、阪和線の熊取駅から和歌山線の粉河駅まで、初めてバスに乗った▼乗客は3人。2人が途中で降りてしまったので、最後は私一人になってしまった。粉河駅から粉河寺まで10分ほどの道では誰とも会わないし、ほとんどの店が閉まっていた、静まり返っていた▼1軒だけ営業中の万屋さんを覗くと、81歳だという店主と85歳のお客がお茶を飲んでいた。その客が戦後、この街にお嫁に来た時は、この10分の道の両側の店がみんなにぎわって、活気のある街に嫁いだと喜んだ。ところが60年余りの間に誰もいなくなってしまうとか▼「毎日の買い物に来る客は5人。でもこの5人は少し離れたスーパーにいけない高齢者。だからこの5人のために店を閉めるわけにはいかない」と店主。あなたのような人が来てくれるとありがたいと、冷たいビールを出してくれた▼ごちそうしてくれたと思ったら、ちゃんと料金は請求された。カモになったが、知らない街の現実とおおらかな店主を知ることができて楽しかった。

（石）



区社協・区役所・大阪国際交流センターとの合同訓練実施

災害時の迅速な連携のために



災害時を想定して連携

天王寺区社協では、平成30年から防災検討会を設置し、毎月1回会議を持ち、災害時に関する学習や検討を継続的に進めてきました。

今回は、9月2日に実施された「大阪880万人訓練」にあわせて、昨年度と同様に区社協、区役所、大阪国際交流センターがそれぞれ個別に災害発生初期の本部開設などの訓練をおこない、連携を高める合同訓練を実施しました。また、災害ボランティアセンター（以下、災害VC）を立ち上げるにあたり、災害発生初期におけるそれぞれの役割や連携手法についても確認しました。



区社協として どう対応するか確認

同日13時33分頃、参加者の携帯電話が騒がしく鳴り、地震発生を知らせる緊急速報メールを受信。会場である区在宅サービスセンターの3階に区社協職員が集合し、訓練が開始されまし

た。

天王寺区の想定は震度6弱相当で、区在宅サービスセンター自体は全損ではないが柱にヒビが入っており、電気、ガス、水道も使用不可で、固定電話及び携帯電話は何とか通じる状況となりました。そのなかで訓練参加者は、職員・家族の安否確認、建物及び周辺の点検を開始し、慌ただしく訓練が進んでいきました。

区社協の坂根浩幸事務局長の号令により、災害対策本部を設置し、区役所災害対策本部との連携を図るために職員2人を区役所に派遣。本部立上げ後は、情報処理や情報発信の訓練として、事前に用意された状況付与票をもとに相談に対してどのように対応していくかを検討しました。

「地域内での要支援者からの相談」や「施設からの入所者の介助・支援に係る相談」、また、「区民からボランティアとして支援したいとの連絡」や「他都市のボランティア団体からの応援支援に係る連絡」が次々と入り、内容を所定のボードに記入

しながら対応を検討していきました。

ニーズや相談に対して、ボランティアをマッチングできるかどうかの検討を進めながら、ニーズを正確に聞き取り、その状況を区役所に伝え、災害VCの設置に向けて協議をすることが訓練の大きな目的の一つです。区役所との協議を経て、要請を受けてセンターを開設し、ニーズとボランティアとのマッチングを進めたところで訓練を終了しました。



課題を出し合い 今後につなげる

訓練終了後すぐに、上手くいった部分や課題と感じたところなどを出し合い、ふりかえりました。

参加者からは、「事務局長を中心に災害対応の体系ができていたと思う。ただ、指示する職員がいらない場合も想定しておく必要があると再認識できた」「昨年度は区役所との連携が課題にあがっていたが、今年度は一歩前に進めることができた」といった意見が出ました。



訓練をサポートしたKZ総合防災企画の黒田和伸代表からは「今日の訓練で感じた課題を出し合い、特に災害VC開設後どうしていくかの検討が必要」と話がありました。

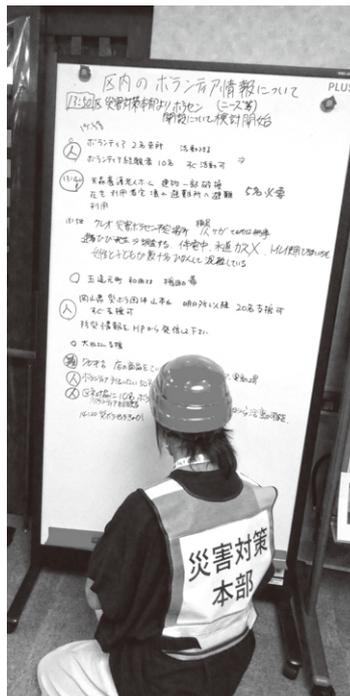
い。骨組みに沿って進めるだけではなく、間の動きや検討が大切。ニーズの捉え方やマッチングの仕方でも丁寧に検討していきたい」と締めくくりました。区社協として、災害支援に係る取組みをこれからも継続してまいります。



▲職員総出で訓練を実施しました



▲終了後すぐに輪になり、ふりかえり



▲次々と入る相談・対応をボードにまとめていきます

つながりをつくる・くらしを支援する・活動をひろげる

社協で働く私の仕事②



社会福祉協議会（略称・社協）は社会福祉法に基づき、「地域福祉の推進」を目的として活動しています。そのなかで、生活にお困りの方や高齢者への相談支援といった暮らしを支える「個別支援」と、地域に根差した地域福祉活動の推進、ボランティアを育成する「地域支援」と大きく2つの役割があります。

そんな社協の役割について知っていただくきっかけとなるよう、本誌では令和4年6月号（4、5面）に続き、職員の社協を志したきっかけや担当している仕事、そこに込める思いを紹介します。

※本記事は、8月19日に開催した市社協内定者説明会の内容をもとに編集しています。



〈北田萌さんの話〉

―担当している仕事内容は？

高齢者の総合相談窓口です。ご本人やご家族、近隣住民から相談を聴き、どのように解決していくかを相談者と一緒に考えながら、必要に応じて関係機関や制度につなぎます。

―仕事のやりがいとは？

初めは、地域包括支援センターに求められる役割や制度を理解するのがとても大変でしたが、上司や先輩方に教えてもらうなかで少しずつ成長できたと感じています。

どういったサービスや制度を使えばいいのか、

どうすれば地域で自分らしい生活

をすることができ

るのかなど、その

人の気持ちに寄り

添った支援を検討

する際に悩むこともあ

りますが、訪問先

で「ありがとう」の

言葉をもらえたり、

支援を拒まれていた

方に「また来てな」と言っ

てもらえた時はとて

もうれしく、私の

やりがいにつなが

っています。

これからも高

齢者ひとりひと

りの生活・思いに



▲商店街で出張相談会（東成区）

※大阪市では区全域を単位とする第1層生活支援コーディネーターに加え、日常生活圏域を単位とする第2層生活支援コーディネーターを配置しています。



入職
3年目

うえだ かずゆき
上田 和幸さん
令和2年4月入職
天王寺区社協
第1層生活支援
コーディネーター※



入職
3年目

きただ めぐみ
北田 萌さん
令和2年4月入職
東成区地域包括支援
センター配属



入職
6年目

いのうえ かな
井上 佳奈さん
平成29年4月入職
平野区社協
第1層生活支援
コーディネーター



入職
3年目

ますもと
榎本 まなみさん
令和2年4月入職
平野区社協
地域支援担当

寄り添った支援をしていけるようがんばります！

〈榎本まなみさんの話〉

―担当している仕事内容は？

地域住民と一緒に誰もが安心して暮らせる地域づくりをしています。他にも、福祉教育を推進しています。

―仕事のやりがいは？

地域で活動されている方々の熱い思いを感じることで。地域の方から、「ずっと考えていたら、昨日の夜に思いついてんけど」「うちの地域でもこんなことできないかな」と相談いただくことがあります。

地域で活動されている方は、

家に帰ってから眠るまで、また、どこかに出向いたときいつでも、自分たちの住んでいる地域がより一層住みやすくなるようにどうしたらいいかを考えておられます。

そのような熱い思いを持った方とともに地域について考えられることは、社協職員ならではのと思い、やりがいを感じます。これからも地域住民の皆さんからいろいろ教えていただきながら、一緒に地域福祉を推進していきたいと思えます。

〈上田和幸さんの話〉

―今、注力している取組みは？

昨年度から開催している「天王寺区のつながり情報交換会」です。

高齢者の居場所・活躍の場の創出に向け、社会資源の活用や「住民、企業、行政、専門職等」の多様な連携を考える場として実施しています。

―社協の仕事の魅力は？

地域の方とのふれあいはもちろん、広報や事業企画など多くの業務を経験することができるところです。また、研修や先輩方

▲学校に出向いてボランティア活動について啓発（平野区）



▲住民と企業、専門職等が一緒になって地域の状況をマッピング（天王寺区）

け、地域活動の中止が続いたときに、「会館で食事をする会食が難しいなら、会館まで取りに来ていただく、またはご自宅までお届けする配食の形に変更すればいいのではないのか」「外での実施やアクリル板など、感染症対策を徹底すれば再開できるのではないか」など、住民同士で話し合い、今できることを精一杯取り組まれている活動の後方支援をできることに喜びを感じて

います。

〈井上佳奈さんの話〉

―担当している仕事内容は？

定年退職後の高齢者（プラチナ世代）が通える・参加できる“場”やいきがいにつながる“場”をさまざまな人や団体と連携しながら創出し、いきいきとした暮らしにつながるよう応援する役割です。

―今後、取り組みたいことは？

①区内の高齢者「困りごと」を調査するアンケート②社会貢献活動を実施している企業へのアプローチの2点です。

①の調査では、コロナ禍で変化した区民の困りごとを把握し

たいと考えています。区内で「どんな困りごとを抱えている住民が多いか」を把握することで、「住民同士のささえ合い・助け合い」をさらに拡げていきたいと考えています。

②では、社会貢献活動をおこなっている企業や団体が区内でも多くなってきたことを受け、地域と交流会を企画し、「コミュニティスペース（企業・団体のもつ交流スペース）を活かした活躍・参加できる“場”づくり」など企業・団体が「できること」と地域が「してほしいこと」をつなぐことで、さらなる地域の活性につながればと考えています！



▲高齢者のいきがいづくりの一環として農園での活動を支援（平野区）

住みよい街の実現に向けて、つながりをサポート

”NPO・企業交流会

IN FUKUSHIMA



テーマを絞らない、
つながり交流会

福島区社協では9月6日、社会貢献活動に興味のある企業・団体を対象に、「NPO・企業交流会 IN FUKUSHIMA」を開催しました。

区社協を会場に、オンライン（ZOOM）も併用して、11団体20人（企業5社、NPO等団体6団体）が活発に交流をおこないました。



▲福島区を良くしていきたいという思いで集まった皆さん

今回の取組みは、区内で社会貢献活動に関心がある、もしくはすでに取り組んでいる人や団体同士、区社協がつながり、福島区をより住みやすい街へ発展させていくことを目的に企画・開催したものです。

これまでも、防災などテーマを決めての交流会は開催してきましたが、「社会貢献活動をしたいが、何から始めれば良いのか分からない」という相談が区社協に多く寄せられたことを受けて内容や対象を再検討。

活動事例や
体験談に
興味津々

会の冒頭では、矢山英夫区社協会長からの挨拶や進行説明の後、2団体が活

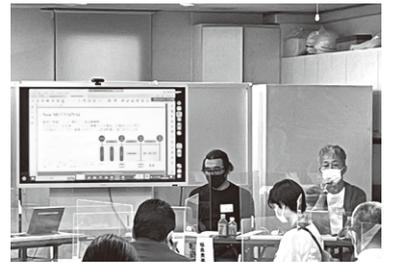
動を報告。

福島区内で営業する飲食店を中心に結成された有志の会「福島食楽部」の松野下秀毅さんからは、月1回している清掃活動のほか、「てへぺろキッチン（本誌令和3年12月号掲載）」に参加した事例報告が。認知症の高齢者がウエイターとしていきいきと活躍する「てへぺろキッチン」に協力し、消防車を改良したキッチンカーでお弁当を販売した際の思いや取組みを聞きました。

また、NPO法人日本もったいない食品センターの高津博司さんからは、支援のサブ拠点として展開している食品ロス削減ショップ「eco eat（エコイト）」の目的、賞味期限の知識などを紹介する啓発活動についての話がありました。

報告後の質疑応答では、高津さんが食品ロス削減に携わるようになったきっかけについて質問があり、総合商社での経験から食品ロスと貧困家庭の実情を再認識し、現在の活動へつながっていったという貴重なお話も聞けました。

自己紹介を兼ねて、
思いと取組みを共有



▲福島食楽部の松野下さん（左）とNPO法人日本もったいない食品センターの高津さん（右）

その後のフリートタイムでは、参加者同士の交流を深めるため、3つに分かれてグループワークを実施。最初に、区社協が用意した8つのテーマ（環境・障がい・高齢者・子ども・まちづくり・防災・貧困・自由）から、自分が気になっているテーマを選び、自己紹介を兼ねて発表してもらうことに。それぞれの立場や思いを共有することで、その後のディスカッションも活発に進みました。

ディスカッションの中では「地域福祉活動者が高齢化しており、今後の活動の担い手をどうするか気になっている」「区民への広報活動をどうすればいいか知恵を貸してほしい」などの意見もあり、予定の時間内では収まりきらず、終了後も引き続き名刺交換や交流がおこなわれました。

さらなるつながりへ、
ここからがスタート

この交流に参加して、「日々の課題から話を進めるグループや活動について話し合ったグループもあり、ここで出会えた企業同士でお互いの強みを活かしながら、地域貢献を考えていくという形もあるのかなと思います。企業や団体、地域がニーズに合わせて得意分野を活かせるように状況に応じて調整やマッチングをしていくのは、社協の役割の一つです」と大阪市ボランティア・市民活動センターの異俊朗副所長。

区社協の成田さんも「今日の目的はまずつながることです。今回をスタートラインにして、2回、3回と続けていきたいです。やってみて初めて気づいたこともあったので、交流会で出した話や得られた情報をもとにして、次回のプログラムなどを練りたいと思います」と抱負を語りました。

企業や団体の垣根を超えたつながりをサポートし、それぞれの良いところの展開ができることが期待されます。

環境	まちづくり
障がい	防災
高齢者	貧困
子ども	∞(自由)

▲当日使用した8つのテーマのカード

「もったいない」を「ありがとう」に フードドライブの取組み



東住吉区社協

フードドライブとは、各家庭で使いきれない未使用の食品を集め、必要な方に無料でお渡しする活動です。最近では、区社協と企業が協働して実施している取組みも増えています。今回は、そのなかの一部を紹介します。

区内の企業で食料の回収箱を設置し、提供された食料は生活でお困りの方に区社協からお渡ししています。

持ち込める食材は、余っている食品ならなんでも良いというわけではなく、細かな決まりがあります。実施する団体などによって異なりますので、事前にご確認ください。

これまでも区社協には年間20〜30件の食料支援に関する相談がありました。令和3年度には約3倍の90件の相談がありました。区内で、支え合い、助け合える仕組みづくりをしたいと考えていたところ、区内の企業から「地域貢献できれば」と相談があり、協働による取組みを開始しました。

今後、10月16日開催の区民フェスティバルでは、フードドライブの窓口の設置と介護やくらしの出張相談ブースを設置し、11月11〜12日開催のボランティアdaysではフードパントリー（食料品のお渡し）をする予定です。

北区社協

区社協では、区内のさまざまな課題に対する取組みとして、平成29年度からフードドライブを開始し、支援に活用してきました。その後、企業との共同イベントでの啓発をきっかけに取組みの輪が広がり、趣旨に賛同する企業・団体も増え、北区に根づく活動となっています。

現在は、無印良品グランフロント大阪店、四海楼HAPPY FIVE 店に常設の回収箱を設置し、食料品だけでなく、フード&日用品ドライブとして文房具・タオル・石鹸・洗剤（いずれも新品・無使用のもの）なども回収しています。

集まった食品や日用品は、生活にお困りの方や子ども食堂などにお渡ししています。また、年に2回「ひとり親応援!!企画 フードパントリー」でも配布し、区内のゆるやかなつながりに役立てています。

風をよむ

介護分野におけるDX化

大阪公立大学大学院 生活科学研究科 鶴浦直子

2023年度の厚生労働省予算概算要求の概要が公表され、「医療分野・介護分野におけるDX（デジタルトランスフォーメーション）の推進」に関する予算が計上されている。

2023年度の「医療分野・介護分野におけるDXの推進」に関する予算要求は96億円（15億円、デジタル庁計上分も含む）で、前年度当初予算から大きな増額となっている。

DXは、もともとスウェーデンの大学教授エリック・ストルターマン氏が提唱したもので、「デジタル技術が人間生活のあらゆる側面に変化を引き起こしたり、影響を与えたりする変化」とされる。

現在、介護を必要とする人数の増加に対して、介護を提供する人数が大きく足りなくなることが予測され、それに対応するための業務の効率化が求められている。そこで、情報通信技術の

導入を図り、介護分野におけるDX化が目指されている。業務負担の軽減により、利用者へのかかわりに多くの時間をさけることができ、介護の質の向上につながる。これができれば、介護分野におけるDX化の意義があると考える。

一方、介護サービス従事者に対しては、情報通信技術の知識等を求めることになる。また、導入にあたっての費用も問題となる。

さらに、利用者自身自分の情報がデータベース化されることなどによって、一人の人間として見られているのかといった抵抗感を感じることもあるだろう。

私たちの生活の質を向上させるものとしてその力を発揮するためには、技術面、費用面、人材の育成、そして介護が目指す生活の質の向上とどのようにつなげていくのか。あらゆる側面から検討して進めていくことが求められる。

受付できない食品

- 賞味期限が3か月を切っているもの
- 開封されているもの
- 生鮮食品（肉、生野菜、魚介類など）
- 冷蔵・冷凍食品
- アルコール飲料

寄附いただきたい物品

- 缶詰
- インスタント食品
- レトルト食品
- 乾物
- 調味料
- お米
- お菓子

一例



「仕事のやりがいとは？」「福祉の仕事に就いたきっかけは？」
福祉の現場で働く職員がお伝えします！

令和4年度 福祉を学ぶ学生のための施設職員との懇談会

社会福祉施設の若手職員に聞く

ふくしの仕事

開催日時 令和4年11月26日(土) 午後2時～4時

開催場所 大阪市立社会福祉センター3階 第1会議室 (大阪市天王寺区東高津町12-10)

※オンライン (Zoom) 参加も可能

大阪市内には、高齢者、障がい者、子ども、生活困窮者などを対象とした社会福祉施設が約1,000か所あります。今回は、福祉を学ぶ、または関心のある学生を対象に、社会福祉施設で働く職員との懇談会を開催します。

昨年度の参加者からは、「実際に現場で働く職員さんたちの利用者さんとの関わりについて聞いてよかった」「福祉の仕事に就きたいが、具体的な職種は決まっていなかったため、いろいろな分野の話を知ることができてとても参考になった」「学生のうちにできることを知ることができた」と、好評でした。

さまざまな種別の施設職員のお話を聞くことで、福祉の仕事へのイメージを膨らませていただく機会となれば幸いです。

内容 ● 職員による施設・仕事のみどころ紹介

● 若手職員へ気軽に質問タイム など

(会場参加者もオンライン参加者も、当日アンケートフォームから質問できます)

対象 ● 福祉を学ぶ、または関心のある

大学生・専門学校生・高校生

※大学生の場合、主に1・2回生を想定していますが、3・4回生も参加OKです。

● 上記学校の教員

申込方法 申込みフォーム (<https://onl.bz/yR1Uckz>) からお申込みください。

※オンライン参加の方には、開催前日までにZoomのIDとパスコードをメールで送信します。

▶ 申込みフォーム



申込期日 11月17日(木) ※受付延長の場合はHPでお知らせします。

問合せ先 大阪市社会事業施設協議会事務局
大阪市社会福祉協議会 地域福祉課
TEL:06-6765-5606

MAIL: sisetsu-mail@sisetsukyo.osaka-sishakyo.jp

共催 大阪市社会事業施設協議会 (経営委員会)
大阪市社会福祉協議会、大阪市福祉人材養成連絡協議会



▶ 昨年度の様子は
こちらから



立ちどまらない保険。

MS&AD 三井住友海上

三井住友海上の安心

GK



www.ms-ins.com

名刺広告を掲載してみませんか？

新春名刺広告 (1月号に掲載)、暑中名刺広告 (8月号に掲載)のほか、毎月発行号でも随時受け付けています。

詳細はこちらから

<https://www.osaka-sishakyo.jp/advertisement/>

問合せ先 大阪市社会福祉協議会 地域福祉課
TEL:06-6765-5606

